

一般社団法人蔵前工業会令和元（2019）年度事業報告

令和元年度における本会の事業概要を下記の通り報告する。

I. 経営・運営状況

1. 会員の異動

(1) 令和元年度末会員数 80,362 名（学生会員【在学中】6,387 名は含まず）

(2) 永眠会員 168 名（古川昌彦名誉相談役・元理事長、山岸千丈会友、丸山俊夫前東京工業大学理事・副学長他）
逝去に際してはその都度弔意を表した。

2. 本部活動・運営状況

(1) 事務局人事

○特別の業務担当として下記に嘱託として協力願った。

・KMC（求縁）事業部長兼カウンセラー担当

大澤隆太郎氏（S35 機）

・事務局長特命事項担当（主としてくらしか、科学技術部会、中央選挙管理委員会担当） 平塚 芳隆氏（S42 電 44 修）

・同 上（主として就職支援、会誌、規程整備担当） 吉松 明氏（S42 応化 44 修）

・同 上（主として就職支援、学生分科会担当） 青柳 宏氏（S44 機 46 修）

・同 上（主としてシステム・WEB、就職支援、会誌広告担当） 鈴木 康志氏（S46 応物）

(2) 会議等開催状況

1) 令和元年度定時総会 1 回（令和元年 6 月 6 日）

・平成 30 年度決算承認の件については異議なく可決された。

・平成 30 年度事業報告の件、令和元年度事業計画の件、令和元年度予算の件が報告された。

2) 令和元年度支部長会（会員部会企画） 1 回（令和元年 11 月 22 日）

・42 支部中 38 支部の支部長等が出席して開催された。本会執行部、支部、大学の状況報告をすると共に意見交換、交流をはかった。（あわせて学生のサークル活動発表会実施）

3) 理事会 7 回（R 元・5/15、6/6、7/18、10/17、12/11、R2・2/6、3/11）（承認可決案件は 13 頁附属明細書 A 参照）

- 4) 監事会 2回
(R2・5/10 決算+業務+公益目的支出計画監査、11/18 中間監査)
- 5) 理事長指名理事による会友候補者推薦会議 1回(令和元年9月18日)
- 6) 各部会、委員会(総務・経営企画部会、会員部会、ネットワーク部会、編集部会、大学連携支援部会、科学技術部会、資産運用委員会)を随時機動的に開催
- 7) 新年賀詞交歓会(東京支部との共催) 1回(令和2年1月8日)
- 8) 新春講演会(東京支部、蔵前経営者懇話会と共催) 1回(令和2年1月17日)
東京工業大学科学技術創成研究院西森稔教授による「量子アニーリングによる量子コンピュータ開発の現状と展望」、株式会社国際経済研究所 井戸清人副理事長(S48 数・本会理事)による「2020年の世界政治・経済展望～世界同時不況リスクの克服」により盛大に開催された。

3. 会計状況

(1) 決算

- ・新型コロナウイルスの影響でK-meetを始め、一部のイベントが中止・延期となったため、事業活動の収入総額は、前期比1,600万円減の2億2,370万円となった。
その内訳は、以下の通りである。
 - ①会費収入は、学生終身会費の増もあり、前期に比し、若干増の1億4,120万円であった。
 - ②諸催会費等収入は、収益事業「就職情報交換の集い」の1つである博士課程学生対象のDoctor's K-meetの参加企業が増えた一方、3月に開催予定であったK-meetが新型コロナウイルス感染防止のため中止とし、参加費の半額を返金したため、前期比1,910万円減の5,230万円となった。
 - ③寄付金、補助金、広告料収入に雑収入を加えた合計は、前期比270万円増の3,030万円であった。
- ・一方、経常支出総額は、前期比1,120万円減の1億8,720万円であった。
その内訳は以下の通りである。
 - ①事業費は、K-meet 他一部イベント中止もあり、前期比1,120万円減の1億6,830万円となった。
 - ②管理費は、前期とほぼ同等の1,880万円であった。
- ・上記に法人税等経常外費用124万円を計上した結果、当期の正味財産増減額は、学生終身会費の積立額も含め、3,430万円増となった。
(詳細は令和元年度決算資料参照)

(2) 年会費納入状況

令和元年度年会費納入状況(令和2年3月31日現在)

項目		(前年度)
会費納入対象数	80,362名	(78,801名)
会費納入者数	17,394名	(17,286名)
会費納入率	21.6%	(21.9%)
◎他に学生会員(在学中)	6,387名	(6,415名)

II. 事業活動状況

II-1 公益事業

II-1-1 科学技術の振興に関する事業

1. 蔵前理科教室ふしぎ不思議(くらりか)

- ・令和元年度の教室開催数(イベントを含む)は**494**、参加児童数は、**13,500**名となった。台風で**7**教室、新型コロナウイルスで**32**教室の計**39**教室が中止になり、前年度より**1,330**名程の参加者減となった。
- ・講師・助手を務める新入会員の増強について、本年度は正会員**10**名の加入と**3**名の退会(希望**2**名、逝去**1**名)により令和2年3月末日現在のくらりか会員数は、正会員**176**名と順調に増加した。協力会員の見直しを図り賛助会員及び、特別賛助会員含め合計**190**名である。
- ・広島県支部及び東海支部では、本部から直接的支援を受けずに開催する教室が大幅に増大し、支部への移行が順調に進んでいる。今後も未実施テーマを本部のサポートのもとに地方支部に移行する基本方針で臨む。新たな都道府県での教室とイベント開催は山口県、奈良県、岐阜県が加わったが、蔵前工業会各支部の協力を得て、さらなる教室開拓を継続する。

2. 第41回及び第42回蔵前科学技術セミナー

- ・例年同様科学技術部会が企画する東京でのセミナーと支部の企画によるセミナーの2回の開催となった。

(1) 第41回蔵前科学技術セミナー

主 催	一般社団法人蔵前工業会
共 催	国立大学法人東京工業大学
日 時	令和元年10月19日(土) 13時~17時30分
会 場	東工大蔵前会館くらまえホール
参加者	222名
総テーマ	『激甚災害に挑む科学技術』～国土強靱化への取り組み

講演 1 「自然災害への行政上の取り組み」

一般財団法人先端建設技術センター理事長・元国土交通事務次官

佐藤 直良 氏 (S50 土 52 修)

講演 2 「巨大化する自然災害への東工大の取り組み」

東京工業大学環境・社会理工学院長教授 中井 検裕 氏 (S55 社 57 修原)

講演 3 「建物に関わる耐震研究の現状」

東京工業大学科学技術創成研究院未来産業技術研究所教授

山田 哲 氏 (60 物 62 修原)

講演 4 「水災害予測研究の最前線」

東京工業大学環境・社会理工学院教授 鼎 信次郎 氏

講演 5 「首都直下地震に備える：何が起きるか？どう備えるか？」

東京工業大学環境・社会理工学院教授 大佛 俊泰 氏 (60 建 63 修)

(2) 第 42 回蔵前科学技術セミナー

主 催 一般社団法人蔵前工業会 (茨城県支部)

後 援 国立大学法人東京工業大学

日 時 令和元年 12 月 22 日 (日) 13 時 15 分～18 時 30 分

会 場 ホテルレイクビュー水戸 (茨城県水戸市)

参 加 者 250 名

総テーマ 『科学するところ・志・気概』

講演 1 「科学による社会イノベーションと経営」

(株) 日立製作所代表執行役執行役副社長 西野 壽一 氏 (S53 物 55 修)

講演 2 「物質から材料へ～ I G Z O 半導体を例にして」

東京工業大学名誉教授、元素戦略研究センター長 細野 秀雄 氏

講演 3 「『志』を持とう『愛される』よりも『愛する』人になろう リベラルアーツが日本の未来をひらく」

東京工業大学リベラルアーツ研究教育院長、文化人類学者

上田 紀行 氏

3. 関西蔵前講演会

- ・本会の社会貢献事業のひとつとして、西日本地区の支部(大阪、兵庫県、京滋、和歌山県、岡山県)の企画・連携により、広く一般に公開した講演会を開催している。令和元年度は下記のとおり開催した。

日 時 平成 31 年 4 月 20 日 (土) 13 時～17 時 30 分

会 場 中央電気倶楽部大ホール (大阪市)

参 加 者 116 名

講演 1 「災害対策 その思想と知恵と技術」

一般社団法人先端建設技センター理事長 佐藤 直良氏 (50 土 52 修)

講演 2 「社会インフラと仮想資産」

マネックス証券株式会社取締役シニアアドバイザー (本会監事)

桑島 正治氏 (52 経)

4. 蔵前ベンチャー相談室

(1) ベンチャー・中小企業支援活動

令和元年度の新規相談登録企業数は 17 社 (累計支援企業数 248 社) で、企業支援活動として 50 社に 196 回実施した。また、新たにコーディネーターに 2 名就任、アドバイザーが 4 名登録した。

(主な支援例、数字は活動回数) ①オーロラ(株)(19)、②(株)サンテック(16)、③(株)モフィリア(11)、④日本テクノリソース(7)、⑤GEXVAL(株)(7)、⑥Intelligence Design(株)(7)、⑦(株)天の技(6)

(2) 東工大との連携

東工大と支援企業との共同研究の支援を 2 件 (株)アスプローバ、(株)天の技、および、産学連携会員の紹介を 1 社 (株)インフィニティ) 実施した。

産学連携会員向け講演会を支援企業の(株)サンテックにて 11 月 15 日に開催した (東工大廣川教授による講演「高精度加工が、5G 時代のミリ波インフラにどのように役立つのか」)。

(3) 組織連携

神奈川サイエンスパーク (KSP) との連携では協創マッチングフォーラムに(株)サンテックと Intelligence Design(株)2 社が参加 (新型コロナウイルス対応でネット面談を実施)。

首都圏産業活性化協会 (TAMA) との連携ではビジネスマッチング会 (11 月 1 日開催) に支援企業 3 社が参加、また東工大研究・産学連携本部とビジネスフェア (11 月 6 日開催) に共同出展した。つくば研究支援センター (TCI) との業務委託契約では令和元年度支援企業 3 社、委託費 23.2 万円だった。

(4) セミナー、交流会の開催

東工大 IT クラブと合同セミナーを 6 月 14 日に開催した (「最新の放送技術とその将来」～ NHK 放送技術研究所の取り組み～: NHK 放送技術研究所 研究主幹 加藤 隆 氏 (S62 電物修) の講演。参加人数 110 名 (学生 26 名))。

バイオマスセミナーを 10 月 18 日に開催した (「持続可能なプラスチック資源循環に向けて」地球環境産業技術研究機構の乾将行氏 (H5 東工大博士) 他の講演。参加人数 72 名 (学生 4 名))。

専門グループの交流会として、KITC セミナーを 2 回 (4 月 10 日開催の講演「『働きがいのある会社』1 位の IT 会社の実態」(参加人数 30 名)と 10 月 9 日開催の講演「IoT プラットフォームで世界 No.1 を目指す」(参加人数 37 名))、および、KMRC 交流会を 2 回 (7 月 17 日開催の講演「動画による人材育成、ナレッジ共有のポイント」(参加人数 21 名)と 2 月 12 日開催の講演「ソフトロボット学が切り拓く E-Kagen な世界」(参加人数 31 名)) を開催した。

(5) 『蔵前特別賞』・『蔵前ベンチャー賞』

授与式・講演会を 12 月 4 日に開催した (参加人数 113 名 (学生 7 名))。

蔵前特別賞は、東京工業大学 栄誉教授 細野 秀雄 氏に授与された (材料分野における数々の研究業績と実用化及びベンチャー創業による社会・産業への貢献)。

蔵前ベンチャー大賞が(株)オロに授与された (蔵前ベンチャー賞を受賞以来、事業拡大と高収益率を持続して著しい発展を遂げた)。

蔵前ベンチャー賞は、インターステラテクノロジズ(株) (人工衛星ビジネスの開拓と MOM03 号の成功)、(株)ソラコム (クラウドとモバイル通信を融合した IoT プラットフォームを提供)、(株)ツクルバ (IT 技術を駆使したリノベーション住宅の流通プラットフォームの構築)、クリムゾンテ

クノロジー(株) (AI エンターテインメントの未来社会に向けた音声変換技術の開発) の4社に授与された。

(6) 寄付金状況

会員企業からの寄付金は、12社より132万円いただいた。

5. 蔵前技術士会

(1) 事業実績

①総会 (令和元年5月15日)

- ・蔵前技術士会員23名が出席した。平成30年度の事業報告、決算報告、監査報告並びに令和元年度の役員人事、事業計画、予算が承認された。

②講演会

- ・第179回例会 (令和元年5月15日) 「東工大工学院のJABEE受審の取り組みとキャリア教育」安岡康一 (工学院 教授)
- ・第180回例会 (令和元年7月13日) 「伝統工芸の技法と自然科学～ナノテクノロジーは江戸時代から?～」桐野文良 (会員)、「ソフトロボット学が招く新しいロボットの世界」鈴森康一 (工学院教授)
- ・第182回例会 (令和元年12月14日) 会員8名 (岸 敦夫、熊坂 治、米谷 栄二、佐々木宏、新開 靖、根木 茂人、平野 輝美、脇田 俊昭) によるミニトーク
- ・第183回例会 (令和2年2月15日) 「エネルギー自立型スマートハイブリッドマンションにおけるエネルギー利用効率の実測と考察」野口壽一 (会員)、「半導体とMEMS (微小電気機械システム) の融合が世界を変える: バイオセンサー応用例」池田修二 (tei Solution)

③講座他

- ・技術士講座 (令和元年6月12日): 「55歳を超えてからのSNS活用講座～今こそ仲間とつながろう」熊坂治 (会員)
- ・白星会「先端技術フォーラム」出展 (令和2年2月14日)

④見学会 (第181回例会・見学会)

- ・国土交通省国土技術政策総合研究所 (つくば、令和元年11月12日)

II-1-2 東京工業大学との連携並びに支援

1. 蔵前立志セミナー、蔵前ゼミ

- ・平成29年度から東京支部と東工大 (リベラルアーツ研究教育院) が共催して、蔵前立志セミナーを開催している。令和元年度も学生と卒業生により、講演と交流会の間にミニワークショップを開催する形式で4回実施した。また、神奈川県支部企画の蔵前ゼミ (内1回は新入生歓迎会と同日開催) はすずかけ台キャンパスで6回開催した。

(14～15頁附属明細書B参照)

2. 第 11 回一橋大学・東京工業大学合同移動講座

- ・平成 21 年度から如水会と共同で合同講演会を支部の協力を得て各地で開催している。令和元（2019）年度は、第 11 回を下記のとおり開催し、約 350 名の聴講者を集めた。この企画・実行には、開催地の東海支部並びに大学連携支援部会があたった。

主 催 一般社団法人如水会、一般社団法人蔵前工業会

共 催 国立大学法人一橋大学、国立大学法人東京工業大学

後 援 文部科学省、経済産業省、愛知県、名古屋市、愛知県教育委員会、名古屋教育委員会、中部経済連合会、名古屋商工会議所、中部経済同友会、愛知県経営者協会、日本経済新聞社名古屋支社、中部経済新聞社、中日新聞社、朝日新聞社、読売新聞社中部支社、毎日新聞社、NHK名古屋放送局、CBCテレビ、東海テレビ放送、メ〜テレ、中京テレビ放送(株)、テレビ愛知

日 時 令和（2019）年 12 月 8 日(日)13～16 時 30 分

参加者 約 350 名

会 場 名古屋マリOTTアソシアホテル・アイリス

テ ー マ 『AI・ビッグデータが創る令和の日本～どうなる？モノづくり・仕組みづくり・人づくり』

基調講演 I 「イノベーションが沸き起こる社会に向けて」

株式会社日本総合研究所チェアマン・エメリタス 高橋 進 氏

基調講演 II 「ビッグデータから見える社会の現象」

東京工業大学科学技術創成研究院教授 高安 美佐子 氏

講演 1 「ソーシャルデータサイエンスの新時代」

一橋大学長 蓼沼 宏一 氏

講演 2 「大学から始まる AI ビッグデータが創る新領域の創成」

東京工業大学長 益 一哉 氏（52 電物 54 修電子 57 博）

オープニングアドレス 如水会理事長 杉山 博孝 氏

クロージングリマークス 蔵前工業会理事長 石田 義雄 氏（42 機）

3. ホームカミングデイ

- ・平成 24 年度から回を重ね第 8 回を数えるホームカミングデイは、令和元（2019）年 5 月 25 日（土）に大岡山キャンパスで開催され、本会は共催して支援、くらしか、くれない工業会もイベントを実施し、参加者総数は 1,450 名（全体交流会は 428 名）を超え、好評の裡に終了した。

4. 新入生歓迎会、卒業祝賀会並びに各サークル活動への支援

- ・学生の蔵前工業会活動への参加拡大を目ざし、学生分科会の企画により新入生歓迎会を開催

している。令和元（2019）年度は4月11日（木）に大岡山キャンパス（約600名参加）で、4月26日（金）にすずかけ台キャンパス（約300名参加）で開催し、盛大に入学を祝った。12月3日（火）に令和2年3月卒業予定の修士課程学生を集め、大岡山キャンパス（約150名参加）で卒業祝賀会（蔵前工業会正会員歓迎会）を開催した。また、各サークルに対し、東工大基金を介して援助金を贈呈し、活動を支援した。

5. 東工大学修コンシェルジュの新入生支援

- ・平成28年度にスタートした東工大の教育改革において、新入生が学修をスムーズにスタートさせ、自主的に学修に取り組むように促す大学の学生支援事業に、引き続き本会会員6名が東工大学修コンシェルジュとして協力した。4月入学直後の7日間に亘り新入生全員対象の新入生ガイダンスを実施した。個別の相談にも対応した。

6. 東工大基金の募金活動への支援

- ・平成24年度で終了した130周年記念募金に引き続き、平成25年度から東工大基金を受け皿にして会誌や支部総会等の場を通じて母校への定常的な寄付を募っている。令和元（2019）年度は下記の協力を得ることができた。また、あわせて東工大サポーターズ会員制度も促進して下記の入会を受け付けた。

＜寄附＞	3,004件	307,840,516円
＜サポーターズ会員加入数・収入＞	392名（内新規33）+4企業（内新規2）	22,376,990円
		（個人20,376,990、企業2,000,000）

7. 母校および関係団体各種行事への参画・交流

- ・母校および関係団体の34行事に理事長、理事、事務局長等が出席した。
（16～18頁附属明細書C参照）

8. 大学連携支援部会による留学生支援活動

- ・TISA（東工大留学生会）による春・秋入学の新入生歓迎会、国別自国紹介イベント等に協力・参加して支援した。日本人学生との共同イベントであるスポーツ大会にも参加。
- ・東京支部主催の蔵前国際芸能大会にも多数の留学生が参加し、各国自慢のパフォーマンスを披露しあい、日本人学生、本会会員との交流を深めることが出来た。
- ・東工大・清華大大学院共同プロジェクトには14年前のスタート時からの連続参加となった。令和2年には15周年を迎えることとなる。

9. その他

- ・東京工業大学が主催する「社会人教育院講演会」、「学内駅伝大会」、「学内レガッ

タ」、講演会、シンポジウム等の各行事に対し、協賛、後援等で開催を支援した。

II-2 共益事業

1. 支部等の活動

(1) 支部総会

- ・37支部で支部総会が開催された他、各地で見学会、講演会、音楽会等さまざま行事が開催され、役員が交代で出席して本会の活動状況について報告し、交流した。また、同様に東工大学長、理事・副学長、副学長も交代で出席され、母校の現況について報告し、意見を交換した。(19～20頁附属明細書D参照)

(2) 海外蔵前会等との国際交流

- ・令和元(2019)年度は、海外蔵前会総会等に出席の為、下記のとおり本会代表が訪問し交流をはかると共に、海外蔵前会代表者等が来会した際に懇談した。

5月9日 フィリピン蔵前会のジェイソンオープン会長他2名来会 金島理事、辻野理事、本房理事・事務局長等と懇談

6月14日 中国東北蔵前会 益学長、本房理事・事務局長

6月29日 ベトナム蔵前会 水本東工大理事・副学長、本房理事・事務局長

9月14日 フィリピン蔵前会 益学長

10月26日 タイ蔵前会 益学長、小倉理事

2. 会員部会の取組み

(1) 会員組織化の推進と活動基盤の確立

1) 全学周年同期会支援

- ・平成11年卒20周年(11/16・178名)、平成元年卒30周年(11/9・58名)、昭和54年卒40周年(12/14・91名)、昭和44年卒50周年(11/30・264名)、昭和36年卒58周年(7/7・97名)、昭和32年卒62周年(6/16・66名)をそれぞれ開催を支援し、大学の代表者と共に役員が適宜出席し、祝意を表した。また、卒5周年同期会の準備は継続中である。

2) 若手の会支援

- ・若手の会は、東京支部が「青燕会」として見学会、関西は「燕友会」として、関西蔵前講演会時の昼食会などを行っている。神奈川県支部は、以前の名称「燕翔会」に戻してさらに活動を展開し、会員間交流を図っている。

3) くない工業会活動促進・支援

- ・2019年度総会(5/25、参加者18名)を開催した。平成30年度事業報告及び決算、令和元年度事業計画及び予算案並びに幹事選出の承認を得た。総会の後は茶話会で会員

相互の交流を図った。

- ・女性研究者の裾野拡大推進事業〔東工大広報・社会連携本部 男女共同参画推進部門と共同主催〕として以下の活動を行った。

- ①オープンキャンパス 2019「理工系女子の『東工大からはじまる未来』」(講演会) 及び「女子&保護者向け相談コーナー」2019/8/10:参加者〔保護者含む。〕講演会 850名、相談 81名・56組
- ②「女子高生のための東工大 BOOK」増刷(9000部)

(2) 大学連携と学生支援の強化

1) 学生の就職活動支援:

- ・くらまえアドバイザー、学生分科会の協力を得て、毎年年度をまたいで1~5月に就職活動支援事業を展開している。令和2年4月就職予定者を対象に、平成31年3月のK-meetに引き続いて平成31年4月17、18日の両日、K-meetⅡ(蔵前就職情報交換の集いⅡ)を開催した。(参加企業128社。学生延べ420名参加)
- ・一方、令和2年3月に就職活動を始める学生を対象とした「仕事とキャリアセミナー」を、令和2年1月20日にすずかけ台キャンパスで(参加企業10社1官庁、学生延べ130名参加)、1月22日に大岡山キャンパスで(参加企業11社1官庁、学生延べ230名参加)開催した。令和元年12月18日には、博士課程の学生を対象として2回目のDr's K-meetを開催した。(参加企業87社、学生延べ240名参加)また、K-meet(蔵前就職情報交換の集い)を令和2年3月3日~5日に大岡山キャンパスで(参加企業321社を予定)開催予定であったが、新型コロナウイルスの影響で中止した。

2) 学生支援センターへの協力: キャリアデザイン授業への講師派遣、就職担当教員への就職情報開示・定期的な情報交換を通じて協力した。

3) 学生分科会の増員をはかると共に自主企画を支援し、活性化をはかった

(3) 「東工大・蔵前カード」の加入促進

- ・平成16年9月から会員の消息把握、管理事務合理化、会費納入促進、母校支援等のため年会費無料の「東工大・蔵前(ゴールド)カード」(卒業生用)を発行している。平成30年度は各支部並びに会員部会による加入促進の努力、カード割引制度の浸透等もあり平成31年3月末日現在で7,654名(平成30年3月末日時点7,513名)の加入者<内訳: 会員5,699名、家族会員1,955名>を数えるに至った。

3. 蔵前工業会誌「Kuramae Journal」

- ・平成31年春号(1072号)~令和2年新年号(1077号)を発行した。発行部数は毎号約25,000部。
- ・新年、入学式、学位記授与式における学長及び理事長の挨拶を掲載した。

- ・「東工大・一橋大合同移動講座」、「蔵前科学技術セミナー」、「各種講演会」、「各支部の講演会」などの講演録を掲載し、科学技術・文化に関する多様なテーマを紹介した。
- ・「各種行事の開催通知・開催報告（スワローコミュニティ）」の毎号掲載、また「蔵前経営者懇話会」、「くれない工業会」、「くらしか事業」など本会の活動記事を随時掲載した。
- ・蔵前ベンチャー賞及び蔵前特別賞の授与式及び記念講演録を掲載した。
- ・大学支援記事として、「東工大便り」、「研究室訪問」、「東工大基金寄附者芳名録」「ホームカミングディ開催案内・報告」などを掲載した。
- ・学生会員対象の記事として、「新生に贈る先輩からのメッセージ」、「学生リポーターの先輩訪問」、「クラブ・学生活動紹介」、「K-meet 及び仕事とキャリアセミナーの開催案内・報告」、「新生歓迎会及び卒業祝賀会の開催報告」などを掲載した。
- ・春秋の叙勲・褒章受章者の紹介記事を掲載した。
- ・その他、海外蔵前会の活動状況について随時掲載した。

4. ネットワーク部会の取組み

(1) 会員管理システム

- ・中途退学者の処理機能の追加等一部機能の改善を図った
- ・平成30年度に引き続き蔵前工業会会費未納者の生涯メールを抹消した。

(2) 学科同窓会・各年同期会へのHP環境提供

- ・これまでの白星会（機械系）他に加え経友会（経営工学系）にも新たに提供した。
- ・2019年に卒業20周年を迎えた同期会、2020年に卒業5周年を迎える同期会にもそれぞれ永続的なHP環境を提供した。
- ・2019年卒業40周年同期会および卒業20周年同期会の開催案内、参加申込にHP環境を提供した。

5. 蔵前経営者懇話会

- ・2019年度の活動は、年度内の退会者13名（内、物故者3名）に対し、新規入会者5名を迎え入れ、期初会員数234名が期末会員数226名となったが、今年も200名を超える会員での活動となった。
- ・恒例の講演会・懇親会等の行事は、最新の世界の政治・経済状況、日本の最先端技術の最新情報など話題性のある講演会を実施し、その知見を深めると共に、会員同士の交流を図った。
- ・暑気払い・忘年会は、会員同士の交流の場として大変盛り上がった。忘年会は、大由鬼山師による日本の伝統楽器「尺八」の演奏に感動。またシャンソンを楽しみ、さらには、会員のパフォーマンスもあり、多数の参加者で盛り上がった。
- ・新春講演会では、「量子コンピュータ開発の現状と展望」と「2020年の世界政治・経済展望」についての講演があり、蔵前工業会会員、大学関係者、参加学生との交流も図ることができ

た。

- ・懇親ゴルフ会は、春と秋の大会を、本厚木カンツリークラブで開催した。春は 40 名、秋は 32 名の参加者があり、活発に会員同士の交流を図った。
- ・平成 23 年度からスタートした「蔵前懇話塾」も 9 年目に入り、本学出身の若手社会人と学生を塾生として、当会役員・会員が交代で担当講師を務め、「将来の日本を引っ張っていけるグローバルリーダーを育て、参加者の異業種間ネットワークの構築の手助けを行う」という主旨での教育を行った。また、今まで参加したことのある塾生同士の交流の場として、7 月と 12 月に懇親会を開催した。
- ・写真部会も、例年通り、撮影実習会、月例会での活動により、会員同士の交流を深めるとともに、写真技術の向上を図り、秋には、東京・銀座で作品展を開催した。

6. その他

○求縁(KMC)サービス

- ・会員並びに会員の家族の要望に対応し、信頼を得て地道に活動をしている。令和 2 年 3 月末日現在登録者数 60 名(男性 35 名、女性 25 名)。

以上